

春 告 草

第 50 号 平成 29 年 2 月 8 日 進路指導部発行

センター試験を振り返る！(第2回)

前号に引き続き、センター試験を振り返ります。裏面にはベネッセ駿台、河合塾などの資料を基に作成した科目分析を掲載してあります。5年生はセンター受験同日テストを受験し、現時点での到達点、課題なども見えてきていると思います。4年生もしっかりと今年のセンター試験を振り返って、これをステップにして更なるレベルへの引き上げを図りましょう。

地歴・公民は何を選択するか

5年生は既に来年度の科目選択を決め、科目登録も済ませた時期ではあるが、念のため地理歴史、公民で何を選択したらよいのかについて、あらためて考えてみよう。

国公立大志望でセンター試験受験を想定し地歴・公民の受験科目を考える際は、**4単位科目**（世界史B、日本史B、地理B、『倫理、政治・経済』）と**2単位科目**（世界史A、日本史A、地理A、現代社会、倫理、政治・経済）の2つに大きく分けてみる必要がある。

国公立大文系を志望する場合、多くの大学・学部は地歴、公民を2科目受験する必要がある。基本パターンは「日本史B」と「現代社会」で受験するなど、4単位科目と2単位科目を合わせた10科目からの2科目の組み合わせ（表2参照）。しかし、東京大、京都大、一橋大など難関大は4単位科目から2科目を選択させるケースが多い。さらに世界史A、日本史A、地理Aが選択できないケースや他教科と合わせて2～3科目を選択させるなど、科目指定にはいろいろなパターンがある。

国公立大理系志望の場合は、一般的に2単位科目を含む10科目から1科目を課すところが多いが、難関大は4単位科目を指定するところもある。

表1に首都圏を中心とするいくつかの大学について、センター試験における地歴・公民の科目指定をまとめた。しかし他教科と合わせた中からの科目選択など、この表に載せきれない指定もある。

なお表1の内容は平成29年度入試におけるものである。次年度以降の入試については、変更の可能性もある。各大学のHPなどから、最新情報を収集するようにしよう。

表1. センター試験における地理歴史、公民の科目指定（平成29年度前期日程）

選択科目群	世界史B、日本史B、地理B、『倫理、政治・経済』	世界史B、日本史B、地理B、『倫理、政治・経済』、現代社会	世界史B、日本史B、地理B、『倫理、政治・経済』、現代社会、倫理、政治・経済	世界史B、日本史B、地理B、『倫理、政治・経済』、現代社会、倫理、政治・経済、世界史A、日本史A、地理A
文系	2科目 東京大（文一、文二、文三） 一橋大（社会、法、経済、商） お茶の水女子大（文教育） 首都大学東京（経営A） 千葉大（文、法政経、教育※、国際教養） 横国大（教育※、都市科学） 1科目 首都大学東京（経営B）	2科目 東京学芸大（教育） 埼玉大（経済） 千葉大（教育） 1科目 東京学芸大（教育）	2科目 首都大学東京（人文・社会）※ 千葉大（法政経） 横国大（経済）	2科目 東京外語大（国際、言語）※ 横市大（国際総合） 1科目 東京芸術大（建築、芸術を除く） 横国大（経営）
理系	1科目 お茶の水女子大（生活） 東京大（理一、理二、理三） 東京医歯大（医、検査技術、歯） 千葉大（理、工、医、薬、看護）	1科目 東京学芸大（教育） 東京工業大（1類～7類）	1科目 電気通信大（情報理工） 横国大（都市科学、理工） 横市大（医）	1科目 お茶の水女子大（理） 東京医歯大（看護、口腔） 東京海洋大（海洋生命科学、海洋工、海洋資源） 東京農工大（工、農） 首都大学東京（数、物、化、生命、地理、看護※、理学療法※、作業療法※） 千葉大（理、園芸） 横立大（理）

※印は他教科と合わせた条件指定。詳細は募集要項などで調べてください。

どの科目で受験するのが有利か

文系志望者は私大受験も視野に入れて受験科目を決めなければいけないので、センター試験の平均点だけを見て、平均点の高い科目を受験科目に決めるのはナンセンスなことではあるが、参考のために最近の平均点推移なども見ておこう。平成24年度頃までのセンター試験では倫理の平均点が70点前後で推移している傾向があり、「倫理は取った方が有利」とアドバイスした時代もあったが、最近はグラフを見ても分かるように平均点の高低について際立った傾向は無いようだ（図1、2参照）。

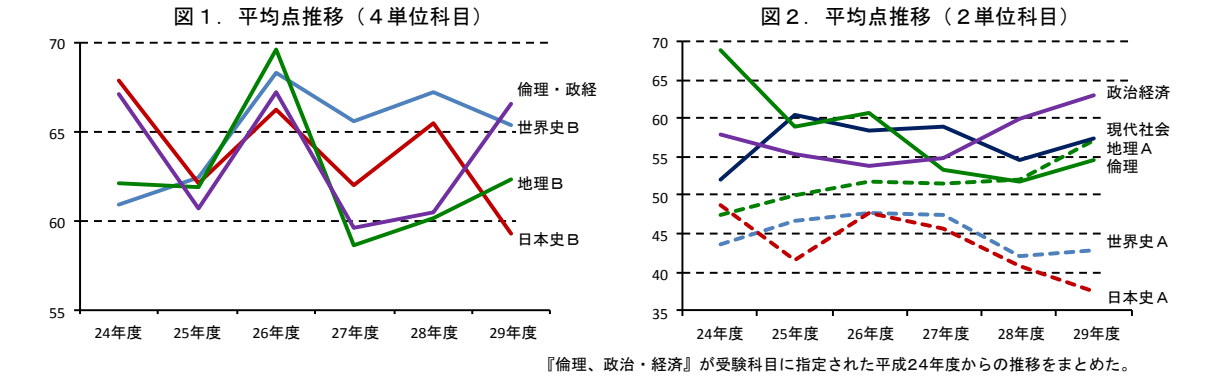


図3のグラフは今年のセンター試験における4単位科目の得点分布状況である。（資料はデータリサーチ（ベネッセ駿台）による。データ件数は約46万件でセンター受験者数の8割弱にあたる。）これをみると世界史Bは高得点寄りにピークがあるのに対し、地理Bはピークを中心に左右対称に近いグラフになっている。年度によりピークの位置にも変動があり、日本史Bは昨年、一昨年に比べてピークは低い方へ移り、しかも目立たない分布状況になった。逆に『倫理・政経』は明らかにピークが高得点方向へ移った。

結局のところ科目選択は、自分の興味、関心によるところが大きくなるが、得点分布状況などは十分に承知したうえで、学習を進めることが大切だ。

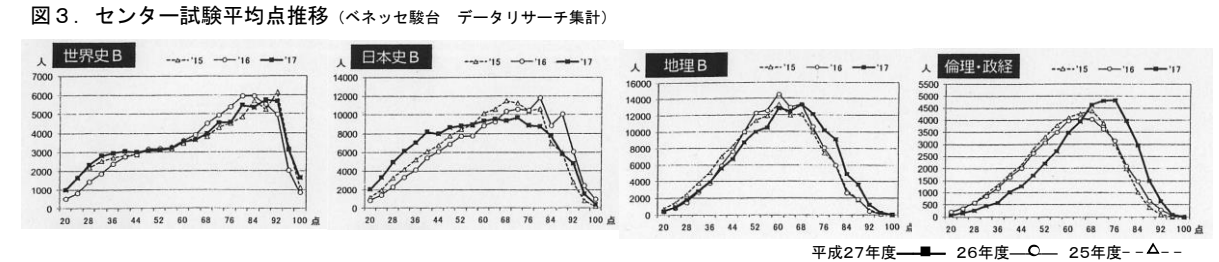


表2. 地歴、公民2科目受験者の科目選択内訳										
教科	地 理 歴 史						公 民			
科 目	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治経済	倫理 政治経済
	世界史A		59人 [0.0%]	51人 [0.0%]	36人 [0.0%]	42人 [0.0%]	207人 [0.1%]	46人 [0.0%]	112人 [0.1%]	27人 [0.0%]
		世界史B	37人 [0.0%]	6,804人 [4.6%]	29人 [0.0%]	6,828人 [4.7%]	10,982人 [7.5%]	5,081人 [3.5%]	6,887人 [4.7%]	11,602人 [7.9%]
			日本史A		36人 [0.0%]	19人 [0.0%]	475人 [0.3%]	94人 [0.1%]	287人 [0.2%]	32人 [0.0%]
				日本史B	32人 [0.0%]	3,471人 [2.4%]	26,805人 [18.3%]	7,895人 [5.4%]	17,424人 [11.9%]	17,102人 [11.7%]
					地理A		344人 [0.2%]	42人 [0.0%]	146人 [0.1%]	20人 [0.0%]
						地理B	11,340人 [7.7%]	1,246人 [0.9%]	4,009人 [2.7%]	4,082人 [2.8%]
							現代社会	189人 [0.1%]	2,124人 [1.4%]	269人 [0.2%]
								倫理	205人 [0.1%]	
									政治経済	

平成29年度センター試験における
地理歴史・公民2科目受験者の科目選択状況
(大学入試センター発表)

■組合せは多い順に

1. 日本史B＋現代社会 [18.3%]
2. 日本史B＋政治経済 [11.9%]
3. 日本史B＋倫理、政経 [11.7%]
4. 世界史B＋倫理、政経 [7.9%]
5. 地理B＋現代社会 [7.7%]

[]内は2科目受験者に対する受験者の構成割合

センター試験科目別分析

国語、英語、地理歴史、公民 編



科目	今年の出題傾向		来年に向けて
国語	現代文の難易度がUP、漢文は日本漢文が出題 現代文第1問(評論)は硬質な科学論からの出題。本文量は700字程度増加し、4000字を超えた。3行選択肢も多く、読み取りには時間を要する。第2問も解くには手間のかかる問題である。古文では和歌が復活したが、内容読解の問題は正誤がはっきりしており、選びやすい出題。漢文で日本漢文が出題されたのは、平成24年度追試験で頼山陽が出題されて以来、本試験としては初めて。語の読み、意味や返り点の付け方と書き下し文、内容説明、理由説明など、設問は標準的であったが、文の解釈は出題されなかった。 現代文・古典ともに、文章全体の主旨や主題を把握する力が必要とされ、全体として平均点の高かった昨年に比べて難化した。		センター試験では、問題文の内容を大きく言い換えて表現された選択肢が多く見られる。傍線部の前後と選択肢を照合するだけでなく、文章の構成や展開に着目しつつ、問題文全体の趣旨を把握することで、正答を選ぶ習慣を身につけよう。
	配点	第1問 現代文・評論 小林傳司「科学コミュニケーション」による(50点) 第2問 現代文・小説 野上弥生子「秋の一日」(50点) 第3問 古文「本草物語」(50点) 第4問 漢文 新井白石「白石先生遺文」による(50点)	
英語筆記	物語は出題継続、英文の内容を大づかみさせる傾向が一層顕著に グラフや生活情報、論説に加え、昨年の追試験で9年ぶりに復活した物語文が今年も出題された。本文の理解がやや難しく、行間の意味を推測するなど素材に応じた読み方が求められた。総語数は昨年より約50語増えて、4,335語。全体的に概要を問う問題の出題が多く、英文の内容を素早く大づかみする力が一層求められ、現行課程にそった出題となった。第5問は難化した。		センター試験では長文の占める割合が高く、ここ数年は、英文の概要を問う内容が多くなっている。日頃から長文読解の基礎基本となる語彙や文法の力をつけると共に、多様なジャンルの英文に触れ、要点を押さえながら読むスキルを身につけよう。
	配点	第1問 発音・アクセント(14点) 第2問 文法・語彙語法・語句整序・応答文完成(44点) 第3問 会話・不要文指摘・発言要約(41点) 第4問 データ読み取り(図表・広告)(35点) 第5問 長文読解(物語)(30点) 第6問 長文読解(論説)(36点)	
リスニング語	実践的な英語力に加え、音声＋非連続テキストの同時処理が鍵に 文字情報と音声情報を組み合わせて答える問題や、話し合いの場面が出題され、場面に応じた聞き取りを要する実践的な英語力が求められた。読み上げられた英文の総語数は1,145語(昨年は1,129語)、質問・選択肢の総語数は昨年に比べて約70語減り、選択肢の読み取りの負担は若干軽減されているが、ポスターの情報を読み取ったり、言葉の言い換えがより問われるようになったことから、全体的には難化した。		日常的な口語表現を問う問題から、概要把握力を要する問題、印刷された情報と読み上げられた情報を組み合わせて解く技能融合型の問題まで、幅広い力を求める問題が出題されている。多様な種類の英文で、場面や目的に応じた聞き取りをする練習の積み重ねが、得点アップの鍵となる。
	配点	第1問 短会話(12点) 第2問 短会話(14点) 第3問 会話/ポスターと対話文(12点) 第4問 モノログ/討論(12点)	
世界史B	地域網羅性が高まり、地図の読み取り問題が増加、グラフも継続 昨年よりアジアが減少し、アフリカが増加するなど地域網羅性が高まった。現代史と社会経済史が増加した。地図を用いた問題が増加し、昨年同様グラフを読み取って判断する力も求められたが、時期判断問題は減少し、基本的な内容が中心。日本国憲法や治安維持法など、日本史関連についても出題された。難易度は昨年並。		センター試験では、例年、あらゆる時代・地域・分野から、基本事項を中心に出題される。教科書や図説の地図と年表を活用し、登場する人物や出来事が「いつ」「どこで」起こったのかをおさえながら、理解を深めていこう。
	配点	第1問 世界史上のマイノリティ(少数派)(25点) 第2問 世界史上の革命や政治体制の変化(25点) 第3問 国家が諸地域を統合するために採用した制度(25点) 第4問 世界史における自然環境・資源と人間との関わり(25点)	

科目	今年の出題傾向		来年に向けて
日本史B	史・資料の読解力が要求され、統計資料を用いた出題が復活 主題学習を意識した歴史と生活を結びつけるテーマ性の強い出題がみられた。また、現行課程で重視されている史・資料を読解し解釈する力や、地理的視点に基づいた考察力が求められる傾向が続いた。政治史からの出題が増え、文化史が減少したが、一部に難易度が高い設問もあり、全体としては昨年よりやや難化。		センター試験では、1設問の中でテーマに沿った幅広い時代や分野から出題される。これに対応するためには、歴史用語を暗記するだけでなく、時代や分野を縦断的・横断的に捉えて学習しよう。その際、歴史事項の因果関係や関連事柄をテーマに沿って整理していくことが大切だ。
	配点	第1問 旅で知る各地の歴史 (16点) 第2問 古代の思想・信仰と政治・社会との関係 (16点) 第3問 中世の政治・社会・文化 (16点) 第4問 近世の文化・政治・社会 (16点) 第5問 幕末から明治期の大坂 (大阪) (12点) 第6問 近現代の公園からみる歴史 (24点)	
地理B	図表読解力重視の傾向は継続、昨年に続き「比較地誌」が出題 2か国を扱う「比較地誌」の大問が昨年に続いて出題された。例年通り多彩な図表が用いられ、歴史的背景を問う出題もみられた。確実な図表読解力と地理的思考力のほか、詳細な知識が求められた。地理Bのほぼ全分野からまんべんなく出題される傾向は変わらず、昨年よりやや易化。		各分野の重要事項や原理や原則はしっかり押さえておこう。そのうえで、論理的に類推・考察する演習を繰り返し行うことが重要だ。また、どのような問題が出題されても、これまで学習した内容と結びつけて考えることで、攻略の糸口をみつける対応力を身につけておこう。
	配点	第1問 世界の自然環境と自然災害 (17点) 第2問 資源と産業 (17点) 第3問 都市・村落と生活文化 (15点) 第4問 中国の地誌 (17点) 第5問 スペインとドイツの地誌比較 (14点) 第6問 壱岐島の地域調査 (20点)	
倫理	目新しい人物や思想内容が扱われたが、全体では基本的な問題が増加した 大問構成や出題分野は変更なし。現行課程教科書で記述の増えた現代思想分野の人物を意識した設問構成となっている。目新しい人物や思想内容が登場しているが、基本的知識で解答できる問題が増加した。ピカソや雪舟などの芸術家の出題もみられ、現代の思想では現象学やクーンの思想の理解が問われた。やや易化。		リード文を丁寧に読み、内容をしっかり把握して問題に取り組むことが大切。思想家の基本的な用語の意味内容の理解に加え、相違点や共通点、さらに思想史の流れを理解することが重要。資料読解問題にも慣れておくことが大切だ。
	配点	第1問 芸術を生み出すものは何か (28点) 第2問 社会の問題とよりよい生 (24点) 第3問 日本における外来思想・文化の受容と展開 (24点) 第4問 人間の精神や社会の考察と自然探究との関わり (24点)	
政治・経済	各分野から基礎的かつ重要な事項を中心に網羅的に出題された 「倫理、政治・経済」との共通の設問が4大問中、3大問で出題された。基礎的かつ重要な事項の定着を問うとともに、統計資料等を用いた論理的な考察力や読解力を要する出題もみられた。家計・企業・政府の経済循環に関する問題や需要曲線・供給曲線の問題など、基本事項が中心に問われていて、難易は昨年並。		今年も、基礎事項を押さえておけば解答できる問題が中心。まずは着実に学習を積み重ね、基本を身につけておこう。基礎的な事項をもとにして考察する力も求められるので、関連する知識を結びつけながら学習することが大切だ。
	配点	第1問 民法の歴史的背景と社会 (28点) 第2問 発展途上国と先進国との関係 (24点) 第3問 民主主義の発展と課題 (24点) 第4問 国際経済や地域経済における貨幣のあり方 (24点)	
倫理、政治・経済	「的確な文章読解力」と「基本事項どうしをつなぐ力」で明暗 全設問が「倫理」および「政治・経済」からの転用であった。倫理分野の読解量はやや減少して思想家の正確な内容理解が問われ、やや難しい内容。政経分野では基本事項どうしを関連づけて考えることが求められたが比較的取り組みやすい設問が並んだ。難問は少なく、全体的には昨年より易化した。		重要語句の暗記だけでは対応しきれない思考力が問われる問題も散見される。基礎・基本を身につけ、その後で類題や過去問に多く取り組んで慣れておくことが大事です。
	配点	第1問 芸術を生み出すものは何か (14点) 第2問 日本における外来思想・文化の受容と展開 (18点) 第3問 人間の精神や社会の考察と自然探究との関わり (18点) 第4問 民法の歴史的背景と社会 (22点) 第5問 民主主義の発展と課題 (14点) 第6問 国際経済や地域経済における貨幣のあり方 (14点)	
現代社会	写真を用いた出題や文章の趣旨を問う出題がみられた 大問内や設問内で各分野を融合的に問う問題、写真を用いた問題や文章の趣旨を問う問題が出題された。思考力・読解力を必要とする資料問題や時事的な知識を要求する出題もあった。制度や政策、現状を問う問題を中心として、各分野から偏りなく出題され、基本事項の知識を問う問題が中心であり、昨年よりやや易化した。		基本事項の正確な理解が求められる。用語の名称だけでなく、法律や条約などの内容や成立背景、経済理論の仕組みなどをおさえておくことが必要。普段から社会の動きに関心を持ち、時事的な知識を取り入れた学習を進めよう。
	配点	第1問 森林と人とのかかわり (22点) 第2問 民主主義のありかた (14点) 第3問 就職活動からみる現代の経済 (22点) 第4問 歴史的景観の保全 (14点) 第5問 貧困と世界の教育格差問題 (14点) 第6問 賃金のもつ二つの側面 (14点)	